

(様式)

令和5年度 学校評価 学校関係者評価書

学校園名	三木市立三木東中学校
------	------------

1 学校教育目標

思いやりにあふれ 何事にも主体的に挑戦し 創造できる 生徒の育成

2 本年度の重点目標

- ・自他の命や人権を大切にす豊かな心の教育を推進する。
- ・ICT機器を積極的に活用し「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善と工夫に努める。
- ・風通しがよく、明るく元気な職場づくりに努め、OJTの充実と学校全体の組織力を高める。
- ・学校からの積極的な情報発信等による、学校運営協議会制度を見据えた教育活動を推進する。

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
教育課程 学習指導	・授業時数の確保 ・基礎、基本の定着を図る授業 ・生徒が主体的に学習に取り組むための授業改善 ・生徒の主体性、協働性、創造力を育む教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の効率化と生徒の主体性 ・ICT(タブレット)を活用した授業改善 ・少人数指導、同室複数指導の実施 ・教育機器(電子黒板等)の活用 ・朝の読書、モジュール学習(朝夕の2回)の実施(読書活動とQubenaの活用) ・学習コンクールの実施 ・「自主学習ノート」の取り組み ・東中検定(漢字検定)など、学習意欲向上の取組 ・租税教室講師招聘(税理士:上田さん) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な授業時間数の点検 ・少人数授業や同室複数授業を通したきめ細やかな指導の充実 ・タブレットを活用した授業の展開 ・モジュールではタブレットとプリント教材を併用した基礎基本の充実。「個別最適な学びの充実」 ・小中一貫教育での学習ルールや規律の徹底 ・学習コンクールの充実 ・生徒も教師も楽しいと感じる授業の展開 「協働的な学びの充実」
教員の資質向上	・教科指導力の向上 ・生徒に寄り添った生徒指導と生徒指導体制の推進 ・意欲的な研修への参加促進	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実現の授業力向上 ・数学、美術、体育の研究授業を三木市で公開。 ・GIGAスクール構築のために教職員のICT活用(タブレットを活用した授業) ・講師招聘による授業力向上研修(年3回以上)(兵庫教育大学 教授 羽田潤) ・SC、SSWとケース会議の効果的実施 ・教育センター等の研修講座への積極的な参加(オンデマンドの有効活用) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善のための情報提供とICT機器の積極的活用(タブレットを活用した授業展開) ・講師を招聘した校内研修や専門講座の積極的参加 ・生徒に身に付けさせたい力を明確にした教育 ・教職員のスキル向上への意識向上 ・OJTによる若手教師の育成、技術の継承
生徒指導	・内面理解に基づく生徒指導 ・いじめや不登校の早期発見、早期対応、早期解決 ・関係機関との積極的な連携 ・生徒指導体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生活アンケート(いじめの早期発見)の実施(5月・10月) ・年2回以上のカウンセリングウィーク実施(6月・11月) ・いじめ防止対策(西神中央法律事務所:荻埜弁護士招聘) ・生徒指導委員会、不登校委員会の定例開催による情報の共有と具体的改善策の提起 ・関係機関(市教育委員会、適応教室、子育て支援課、子ども家庭センター、警察等)との連携 ・情報モラル、薬物乱用防止教室(NECソリューションイノベータ、暴力団追放兵庫県民センター講師招聘) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境を含む生徒理解の深化 ・発達障害、LGBTQIに関する研修の充実 ・SCやSSWを活用した教育相談の充実 ・SSWやSCを活用した関係機関とのケース会議の充実 ・共通実践のための情報の共有化 ・家庭、地域と連携した生徒への支援 ・生徒を主体とした校則の見直し ・講師の積極的な招聘

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

・生徒のアンケートを総合的に見ると8割から9割近くが肯定的に評価していることは学校運営がうまく行っている証明でもある、生徒と教員、保護者が連携をとり、問題が起こればすぐに対応する学校の取り組みがすべて生徒のアンケートに反映されている。不登校の生徒が年々、増えている状況はどの学校も同じようですが、その生徒たちの対応もしながら、通常業務、部活動の対応で先生方のご苦労は大変なものであると思う。

・不登校の生徒の対応ですが、県教委から各学校に1名づつ支援員が就くよう予算が出ましたが、まだまだ人員的に不足していますし、部活動の指導員の問題も今後、学校だけでなく、三木市全体の問題として考えていかないといけないように思う。

・体育大会や文化祭、校外学習等生徒会が中心となって主体的に行われており、学校行事を楽しく充実して生徒達が参加している姿を見ることが出来た。生徒や保護者が気軽に学校に相談できる雰囲気、関係作りを今後もより一層行って頂きたい。

・アンケート結果による生徒、保護者、教員の同じ項目についての相違がある事が気になる点ではあるのが現状。出来ているから大丈夫という慢心から起こりうる事はとても大きく取返しのつかなくなる事柄もあるので意識改革は必要と感じた。そういった点から現状より良い三木東中学校になって行く事をともにサポート出来ればと思う。

・「主体的・対話的で深い学び」において、生徒同士はもちろん、生徒と教師が対話しやすい関係、環境作りを今後も努めてもらいたい。

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
<p>教育課程 学習指導 評価は「B」が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に学習コンクールなど行い、学びの楽しさを工夫して教えている。 ・学習タイムの導入や青ペンノート、放課後学習などで学びの充実を考えすすめていただいておりますので今後の学校全体のレベルアップを期待する。 ・東中検定など生徒の学習意欲が向上し、基礎・基本が定着する学習方法が取り入れられているところが評価できる。 ・タブレットを活用した授業や東中検定など独自の学習意欲の向上に向けた取組が行われている。 ・東中検定の取組や、少人数制の授業などによる創意工夫がなされている点においては今後も取組の充実を望む。 ・生徒と教師の信頼関係をしっかり築き、生徒も教師も励みになるような工夫、授業を展開してもらいたい。
<p>教員の資質向上 評価は「B」が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部研修や講師を呼んで積極的に学ばせており、若手教員の指導を充実させている。 また部活動の問題では生徒の減少や外部のチームで活動するメンバーが増え、学校としての部活動が成り立たなくなっており、教員の指導経験の有無など指導する側の対応も学校だけではなく、市町村全体で考えていかなければと思う。 ・若い教員が多く、生徒達と年齢が近い事もあって生徒達とのコミュニケーションは取れていい関係が築けていると思われるが、その反面年齢差のあるベテラン教師とのコミュニケーション不足が心配である。 ・年齢の若い先生が多く、家庭・地域との連携が働き方の見直し等により難しくなっている中、課題解決に向け取り組まれている。 ・生徒に寄り添った生徒指導の部分に関してアンケートの結果からも出ている様に生徒と教員による認識の相違がある様に感じる。これからの生徒減少に伴い今以上に蜜な関係になる事を想定に入れた取組を願う。 ・教師自身が自分の考え以外の考えを取り入れ、今後も意識を上げてもらいたい。
<p>生徒指導 評価は「A」が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校としていじめ撲滅に向け、小さなことでもすぐに対応し、人権の大切さを、しっかり子どもたちに学ばせ、意識を持った取組ができています。 ・不登校の生徒で学校に来れそうなメンバーを別室対応として、授業が空いている教員が教えるなど対応をしている。 ・いじめに対する防止対策やカウンセリングの実施などしっかり取組ができています。しかしながら不登校生への対応は行っているものの、年々増加しているのでも今後関係機関と連携し、しっかり支援してほしい。 ・不登校生徒が増加してきているが、関係機関と連携し個別対応を適切に行っている。 ・目に見える子どもの悩みに対しての取組など対応については迅速かつ適切に対応できています。ただ何もいえず我慢をしている子どもに対しての変化に気づくため、日ごろからのコミュニケーションの増加も同時に願う。 ・教師が1人では抱えず共有し、組織的に対応・支援ができる体制づくりを望む。

道徳・人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の充実 ・人権教育の推進 ・自尊感情や自己有用感の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローテーション道徳の実施 ・授業と評価の一体化 ・人権作文、ポスター制作や人権作文発表会、親子人権学習会の取組 ・外部講師による人権教育の推進(あいおいニッセイ：SDGs) ・情報モラル教育の推進(NECソリューションイノベータ講師招聘) ・福祉教育の充実(手話教室) ・三木市の指定教材による同和教育充実。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・講師招聘による人権教育の充実 ・読み物教材の発掘 ・道徳教育副読本を媒介とした家庭での話合いの継続 ・情報モラル教育の推進 ・体験活動やボランティア活動を通じての所属感、自尊感情の醸成 	<p>道徳・人権教育 評価は「B」が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来からの取組を継続するとともに、情報モラルについても意欲的に取り組まれている。 ・外部講師の活用等により引続き取り組んでほしい。 ・生徒も教師も安心して活動できる人権環境づくりをしてほしい。
保健・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスやインフルエンザ等感染予防対策の推進 ・交通安全教育の充実 ・保健・安全意識の向上 ・防災教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染予防のための環境整備や手洗いや換気などの予防対策徹底 ・交通ルール・マナーの注意喚起・啓発(自転車教室等の開催) ・下校指導、交通立ち番(PTAと連携)の実施 ・危険な犯罪の手口、薬物乱用防止講演会の実施(暴力団追放兵庫県民センターから講師招聘) ・学校保健委員会の実施 ・地震、火災避難訓練、1.17追悼集会の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルール、マナーの徹底 ・下校指導、交通立ち番の実施 ・外部講師による専門的な立場からの指導 ・生活に直結する保健安全に関する情報提供 ・災害発生時に対する事前学習と防災訓練の実施 ・AED活用研修 ・教職員の防犯訓練、不審者対応研修 	<p>保健・安全 評価は「B」が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車通学などの安全教室や下校指導、コロナ感染対策など、子供たちの安全で安心な学校生活が送れるよう指導しており、生徒たちの意識が毎年、上がっている。 ・交通ルール、マナーの徹底により、特に自転車通学者のマナーが良くなった。 ・下校指導やPTAと連携して立ち当番を実施し、交通ルール・マナーの注意喚起が行われている。 ・近年不審者や電車の中での犯罪などいつ被害に遭うか分からない世の中になっている。池田小学校の事件の様に子どもが被害に遭う例も少なくない。防犯訓練の実施は難しいにしても起こりうる事も想定に入れておいて欲しい。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた進路指導 ・キャリア教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路説明会の実施(7月・11月) ・進路相談の充実(二者面談の充実6月、11月) ・私学合同説明会への参加促進 ・トライやるウィーク発表会の実施 ・キャリア教育のため講師招聘 ・マナー講座の実施「姫路女学院：魚谷浩一」 ・ものづくり体験学習(1年生) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・系統的な進路指導計画の見直し ・体験活動と連動したキャリアノート活用促進 ・体験活動の充実。トライやる・ウィーク5日間実施 ・キャリア教育のため企業から講師招聘 ・マナー講座の実施 	<p>進路指導 評価は「B」が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「トライやる・ウィーク」やマナー講座など、生徒の将来の方向性を持たせる取組は継続してほしい。 ・トライやるウィーク実施時のフォローや学年に応じた進路指導を行っている。 ・トライやるウィークの実施や三木市の職業に携わる事で将来三木で生活をしたいと思える活動を今後も多く展開して欲しい。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する生徒の理解と支援の充実 ・家庭、関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する生徒の共通理解と効果的な支援のための研修の実施 ・個別の支援計画の作成 ・関係機関との連携の推進(子育て支援課等) ・特別支援教育指導補助員の配置(3名配置) ・生活体験を通じた野菜菜園及び制作作業 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する生徒の共通理解と個別授業 ・個人カルテの作成 ・特別支援教育に係る専門性の向上研修 ・特別支援教育指導補助員と連携した支援 ・生活体験に関連した具体的活動の充実 	<p>特別支援教育 評価は「B」が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する生徒たちに対して、個々に応じた別室授業や関係機関との連携も取れており、しっかり対応できている。 ・特別な支援が必要な生徒に対して、適切な支援が行われている。 ・人手不足や教員不足、働き方改革による労働時間の減少にもかかわらず個別授業や個別対応をして頂ける事を評価する。 ・教師不足の中、通常学級での支援を要する生徒への対応も大変だと思いますが、支援スタッフの充実を図ってほしい。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部と管理職の意見交換会の開催 ・学級経営の充実 ・学校行事の充実 ・生徒会活動の活性化 ・部活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動の活性化 ・生徒会を中心とした生徒主体の学校行事の充実 ・体育大会や文化祭等、行事の練習時間短縮、効率的な内容への改善 ・生徒会委員会活動の充実(校長と年2回以上の座談会実施) ・ノ一部活デーによるメリハリある部活動運営 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自主、協働、創造の力を意識した行事運営 ・生徒会による学校づくりへの主体的な取組 ・生徒会を中心とした生徒主体の行事運営 ・学校行事を通じた達成感の醸成 ・主体的に練習に参加しようとする部活動運営 ・自己肯定感、自尊感情を意識した部活動運営 	<p>特別活動 評価は「A」が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体で学校行事の内容を考え、運営も全て生徒たちが行い、個々の主体性を重視した学校教育が出来ている、そのため、学校の雰囲気がとてもよい感じに運営出来ている。 ・学校行事に参加し、見学させていただくと生徒たちの笑顔がとても印象的であった。 ・自主・協働・創造を意識させ、生徒会主体の行事運営が定着しつつあり、学校の雰囲気も良くなっていると感じる。また、部活動では生徒数減少が進み厳しい状況ではあるが、生徒たちが勉強以外でも活躍できる環境づくりを願う。 ・生徒会を中心に生徒主体の行事運営が行われている。 ・生徒主体の活動や仕組み作り、学校行事を盛り上げ楽しむ、やるときはやる、めりはりの徹底!!学校との協力によって生み出されている環境は素晴らしいと思う。 ・部活動の地域移行は課題が多い状況ですが、生徒の主体的な取り組みで更に活性化していくように教師のサポートをお願いしたい。
施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備の充実 ・美化活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化設備や損傷箇所の修繕 ・PTA予算による備品等の購入 ・PTA環境整備部による花壇整備 ・教師と生徒が同行の清掃活動 ・生徒会活動による施設整備(美化コンクール等) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・市教委と連携した施設設備への対応(老朽化設備や損傷箇所の迅速な修繕) ・生徒の美化活動やボランティア活動の推進 ・PTAとの連携充実 	<p>施設・設備 評価は「B」が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化と共に劣化した部分がまだまだ多く、生徒たちの安全を考えると市教委と連携し、早急に補修が必要である。 ・学校とPTAがしっかり連携をとり、生徒・教職員が過ごしやすい環境整備に努めてほしい。 ・校舎も老朽化してきているため、今後も市教委・PTAと連携を図り施設設備の維持を行ってほしい。 ・PTA活動の減少、学校、教員、生徒、保護者、地域など接点を増やし子どもたちが中学校生活を全力で楽しみ、コミュニケーションを取れる環境作りを実施できれば良いと思う。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた学校づくり ・保護者、地域との連携による生徒の健全育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・HP等の積極的更新による情報発信 ・学級、学年、学校通信の発行 ・オープンスクールの充実(オープンスクールウィーク年2週間) ・地域行事への積極的参加(生徒会)(たなばた祭り、お月見会等) ・地域への積極的交流(三木金物祭での吹奏楽部定期演奏会開催) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信を推進(HP、すぐる、各種通信) ・地域、家庭からの情報収集 ・オープンスクールや学校行事の開催方法 ・ふれーびいみき、中央公民館行事への生徒の参加(たなばた祭り、お月見会等) ・三木金物祭での吹奏楽部定期演奏会開催 ・三木南交流センターでのイベント交流 	<p>家庭・地域との連携 評価は「B」が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会中心に地域の行事に参加し、積極的に活動ができていると感じる。少しでも多くの生徒たちが地域行事に参加し地元の活性化に期待する。 ・地域交流や地域行事への参加が積極的に行われている。また、オープンスクールの開催方法や学校からの情報発信などに工夫が見られる点から評価はAでもいいのではと思う。 ・地域行事への生徒の積極的な参加が行われている。 ・コロナ禍におけるコミュニティの減少で、より地域との関わりを持ってなくなってしまっている子どもたちにとって、もっと関わりをもてる環境作りを考えていかなければと思う。